

江戸川清掃工場建替工事
総合評価の結果について

令和2年9月

東京二十三区清掃一部事務組合

目 次

1	工事の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	総合評価落札方式を行った理由・・・・・・・・	1
3	総合評価の経過・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4	総合評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5	総合評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	9

巻末資料 「江戸川清掃工場建替工事 総合評価実施基準」

1 工事の概要

(1) 工事件名

江戸川清掃工場建替工事

(2) 工事場所

東京都江戸川区江戸川二丁目 10 番地

(3) 工事概要

既存の清掃工場を解体・撤去後、その跡地に新清掃工場を建設する。

ア 既存清掃工場概要

(ア) プラント 全連続燃焼式火格子焼却炉（廃熱ボイラ付）

600 トン／日（300 トン／日・炉×2 基）

(イ) 工場棟等 工場棟ほか飛灰搬出設備棟・附属施設

(ウ) 煙突 鉄筋コンクリート造外筒・鋼製内筒型 高さ約 150m

イ 新清掃工場概要

(ア) プラント 全連続燃焼式火格子焼却炉（廃熱ボイラ付）

600 トン／日（300 トン／日・炉×2 基）

(イ) 工場棟等 工場棟ほか附属設備

(ウ) 煙突 鉄筋コンクリート造外筒・ステンレス製内筒型 高さ約 150m

(4) 工期

令和 2 年 9 月 30 日から令和 9 年 5 月 31 日まで

2 総合評価落札方式を行った理由

平成 18 年に環境省においてまとめられた「廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き」において、今後の入札・契約方式の標準的なものとして総合評価落札方式の導入が示されました。

この手引きでは、総合評価落札方式を的確に導入することにより、技術・システムにおいてより信頼性が高く、経済性にも配慮した廃棄物処理施設建設が可能となり、市町村等における積極的な導入が期待されるとしています。また、価格以外の多様な要素が考慮された競争が行われることで、技術と経営に優れた健全な企業が競争上優位になり、談合が行われにくい環境が整備されることも期待されると述べられています。

このような国の動向を踏まえ、東京二十三区清掃一部事務組合では、平成 20 年 11 月に清掃工場のより一層の施設の安全・安定性、処理の信頼性の確保及び維持管理費の低減を図ることを目的として、清掃工場建設工事の落札者選定において総合評価落札方式を導入することに決定しました。

この決定に基づいて、平成 22 年度に大田清掃工場建設工事、練馬清掃工場建替工事、平成 24 年度に杉並清掃工場建替工事、平成 28 年度に光が丘清掃工場建替工事、

平成 29 年度に目黒清掃工場建替工事の落札者を総合評価落札方式で選定しました。

江戸川清掃工場建替工事においても、これまでの経緯を踏まえ、落札者を総合評価落札方式で選定することとしました。

3 総合評価の経過

総合評価落札方式による落札者の決定は、競争入札参加者から提出された技術提案書に対する技術評価及び入札価格に基づく価格評価を総合して行うことから、そのための方法及び手順を定めた江戸川清掃工場建替工事総合評価実施基準を策定しました。(以下「総合評価実施基準」という。巻末に添付。)これは、令和元年5月に学識経験者を含む東京二十三区清掃一部事務組合ごみ処理施設技術評価委員会(以下「技術評価委員会」という。)にて審議し、同年7月に東京二十三区清掃一部事務組合ごみ処理施設選定委員会(以下「選定委員会」という。)にて決定したものです。

また、技術評価にあたっては、令和2年4月に学識経験者を含む技術評価委員会にて審議・評価を行い、同年5月に選定委員会にて決定しました。その後、同年8月に入札を実施して価格評価点を決定し、技術評価と合わせて総合評価を行い、落札者を決定しました。

各委員会の構成を表-1及び表-2に、また、総合評価に係る経過を表-3に示します。

表-1 東京二十三区清掃一部事務組合ごみ処理施設選定委員会の構成

	役 職
委 員 長	常勤の副管理者
委 員	総務部長の職にある者
	施設管理部長の職にある者
	施設管理部 処理技術担当部長の職にある者
	建設部長の職にある者
	建設部 計画推進担当部長の職にある者
	江戸川区 部長職にある者

表-2 東京二十三区清掃一部事務組合ごみ処理施設技術評価委員会の構成

	役 職 (特別委員においては、氏名及び令和元年5月時点での役職)
委員長	建設部長
委員	施設管理部 処理技術担当部長の職にある者
	建設部 計画推進担当部長の職にある者
	総務部 企画室長の職にある者
	総務部 経営改革担当課長の職にある者
	施設管理部 技術課長の職にある者
	施設管理部 発電計画担当課長の職にある者
	施設管理部 施設課長の職にある者
	建設部 計画推進課長の職にある者
	建設部 建設課長の職にある者
	建設部 建築土木担当課長の職にある者
	建設部 工場建設担当課長の職にある者
	江戸川区 課長職にある者
特別委員 (学識経験者)	山本 和夫氏 (中央大学研究開発機構 機構教授)
	内山 忠明氏 (弁護士)
	藤吉 秀昭氏 (一般財団法人 日本環境衛生センター 副理事長)
	寺嶋 均氏 (一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 名誉会長)

表-3 総合評価に係る経過

年月日	審議内容等
平成31年 4月19日	選定委員会（第1回） 学識経験者の選定、発注方式等の決定
令和元年 5月17日	技術評価委員会（第1回） 総合評価実施基準（案）の審議（学識経験者の意見聴取を含む）
6月12日	技術評価委員会（第2回） 技術的な入札参加資格（案）、江戸川清掃工場建替工事設計仕様書（案）に係る審議
7月1日	選定委員会（第2回） 総合評価実施基準（案）、技術的な入札参加資格（案）及び設計仕様書（案）に係る審議・決定
7月1日	落札者の選定を総合評価落札方式で行うことをHP上でお知らせ
7月16日	入札公告 入札説明書、工事設計概要書、総合評価実施基準等配布
9月6日	工事説明等資料配付 特定建設工事共同企業体に設計仕様書、環境影響評価書、図面貸与及び技術提案書提出要領配付
令和2年 1月31日	入札参加者から技術提案書受領
2月25日 ・26日	技術評価委員会（第3回） 技術提案書に対するヒアリング（技術提案書の説明・質疑応答）
4月22日 ～28日	技術評価委員会（第4回） 技術評価報告書（案）の審議（学識経験者の意見聴取を含む）、特記仕様書（案）に係る審議
5月14日 ・15日	選定委員会（第3回） 技術評価報告書（案）及び特記仕様書（案）に係る審議・決定
7月3日	入札参加者へ競争入札に参加する者に必要な資格があることを確認したこと及び予定価格を通知
7月10日	入札参加者へ設計図書等配布・貸与
8月14日	入開札・価格評価及び評価値の決定、落札者の決定
9月29日	第3回議会定例会において契約議案審議・可決
9月30日	契約締結

4 総合評価の方法

(1) 技術評価

競争入札参加資格を有することの確認を受けた特定建設工事共同企業体（以下「入札参加JV」という。）を対象とし、入札参加JVから提出された技術提案書について、総合評価実施基準に基づいて技術評価を実施しました。

ア 「性能・機能に関する項目」【必須の要求項目】の確認方法

本項目は、技術提案書が江戸川清掃工場建替工事設計仕様書（以下「設計仕様書」という。）において要求する性能・機能及び工事条件を満足しているか確認するとともに、入札参加JVが江戸川清掃工場建替工事を遂行する技術水準を満たしているか評価するものです。

評価は、表－4に示すように設計仕様書の内容を「全体計画」、「建築」、「プラント設備」と3区分した上で、それぞれに小項目、細目を設定し、技術提案書の内容が設計仕様書の要求条件を満足しているか確認し、これらをすべて満足している場合は、競争入札に参加する者に必要な資格を有しているとししました。なお、1つでも満足していない場合は、入札参加資格を失うこととしています。

イ 「社会的要請への対応に関する項目」、「企業の技術力に関する項目」、「総合的なコスト削減に関する項目」【技術評価項目】の評価方法

本項目は、アにおいて技術提案書が設計仕様書の要求条件を満足していることを確認した入札参加JVに対して、設計仕様書において要求する性能・機能及び工事条件の中で、組合が重視する項目について、提案内容の優劣を評価するものです。

評価は、表－5に示すように「社会的要請への対応に関する項目」、「企業の技術力に関する項目」、「総合的なコスト削減に関する項目」のそれぞれに、中項目、小項目を設け、合計13の評価項目について、定性評価又は定量評価を行いました。

定性評価は、技術提案内容に応じて5段階評価を行ったうえで、表－6「定性評価項目の得点化方法」のとおり、点数を付与しました。

定量評価は、最良の技術提案値に配点の満点、他の技術提案値に最良の提案値に対する割合に応じて点数を付与、又は技術提案値に対して組合の実績に応じて点数を付与しました。

また、小項目をさらに詳細に分けて評価するものは、個々に定性又は定量評価と同じ方法で評価したものに、配点の割合で乗じた点数を付与したものを等しく重みづけして小項目評価点としました。

定性評価及び定量評価の各項目の点数を合計し技術評価点としました。

(2) 価格評価

「性能・機能に関する項目」【必須の要求項目】を満足した入札参加JVを対象として入札を行い、下記の式により価格評価点を付与しました。

$$\text{価格評価点} = \text{配点} \times \frac{\text{最低入札価格}^{\ast}}{\text{入札価格}}$$

※最低入札価格：最低入札価格又は東京二十三区清掃一部事務組合低入札調査制度実施要項に基づく調査基準価格のどちらか高い方とする。

(3) 総合評価

技術評価点と価格評価点の合計点を評価値とし、評価値の最も高い者を落札者としました。

$$\text{技術評価点(満点 75 点)} + \text{価格評価点(満点 25 点)} = \text{評価値(満点 100 点)}$$

表-4 性能・機能に関する項目【必須の要求項目】

中項目	番号	小項目	細目
全体計画	1	工事施工計画	解体・建設工事における発生材・建設廃棄物の処分、山留・掘削方法、騒音・振動・粉じん防止対策、地盤沈下対策、雨水及び汚水対策、安全衛生管理体制、工事現場の管理
	2	省資源・省エネルギー対策	プラント機器・建築設備機器の省エネルギー対策、雨水利用、太陽光発電設備
	3	施設の環境保全対策	大気汚染防止対策、水質汚濁防止対策、騒音・振動防止対策、悪臭防止対策
	4	施設の安全対策、作業環境対策	安全・防災対策、作業環境対策
	5	施設の信頼性向上対策	信頼性向上対策
建築	1	建築本体	平面・断面計画、構造計画、一般構成材、仕上計画
	2	建築設備	給排水衛生設備、消防設備、ガス設備、空調換気設備、場内余熱利用設備、エレベータ設備、その他建築機械設備、幹線設備、動力設備、電灯・コンセント設備、弱電設備、電話設備、その他建築電気設備、外構電気設備
	3	土木外構	構内道路及び駐車場、外構施設、植栽工事、緩衝緑地
プラント設備	1	給じん設備	ごみ計量機、ごみバンカゲート装置、ごみクレーン、ごみホッパ、ホッパゲート
	2	焼却炉本体設備	耐火物築炉、燃焼装置、ストーカ、昇温バーナ装置、主灰・ストーカ下ホッパ及びシュート
	3	灰処理設備	灰押出し装置、灰コンベヤ、スプレッダ、灰クレーン、灰積出しホッパ、飛灰貯槽、飛灰供給装置、飛灰混練機、重金属安定化剤供給装置、固化物コンベヤ、固化物クレーン、固化物積出しホッパ
	4	汚水処理設備	汚水処理装置、凝集沈殿処理装置、か性ソーダ供給装置、塩酸供給装置、液体キレート供給装置、凝集剤供給装置、凝集助剤供給装置、急速ろ過装置、汚泥脱水装置、ケーキ搬送貯留装置、有害物除去装置、放流装置
	5	通風設備	通風ダンパ、押込ファン、二次燃焼用ファン、蒸気式空気予熱器
	6	煙道設備	誘引ファン
	7	集じん設備	ろ過式集じん器、飛灰移送装置、ろ過式集じん器用薬剤供給装置
	8	洗煙設備	排ガス洗浄処理装置、蒸気式ガス再加熱器、液体キレート供給装置
	9	触媒反応設備	触媒反応塔、アンモニア気化装置、アンモニア除去装置
	10	煙突設備	煙突内筒
	11	ボイラ設備	ボイラ本体、スートブロワ、脱気器、エコノマイザ、ボイラ給水ポンプ、ボイラ用薬液注入装置、ブロータンク、高圧蒸気だめ、給水加熱器
	12	発電設備	蒸気タービン、蒸気タービン発電機、非常用発電装置
	13	余熱利用設備	温水設備
	14	蒸気復水設備	タービン排気復水器、空気抽出器、復水タンク、脱気器給水ポンプ
	15	純水設備	純水装置、加熱装置、純水タンク、純水補給ポンプ、廃液中和槽
	16	電気設備	特高変圧器、高圧配電盤、進相コンデンサ、高圧変圧器盤、低圧変圧器盤、発電機盤、低圧動力制御盤、直流電源装置盤、無停電電源装置盤
	17	計装・自動制御設備	プラント用電子計算機システム、監視・制御・操作、ごみ収集車等の車両管制、クレーン設備の制御、焼却炉の制御、ボイラの制御、汚水処理設備の制御、ITV装置、計装用空気供給装置、工場管理ネットワーク、地震計
	18	給水設備	ボイラ用水供給装置、冷却水装置、雑用水供給装置
	19	その他設備	圧縮空気供給装置、脱臭装置、炉内清掃用集じん装置、真空掃除装置、環境集じん装置、バンカ内自動火災検知装置、灰バンカ集じん装置、深井戸設備

表－5 「社会的要請への対応に関する項目」、「企業の技術力に関する項目」、「総合的なコスト削減に関する項目」【技術評価項目】

大項目	中項目	小項目	方法	配点
社会的要請への対応に関する項目	地域環境との調和項目	景観	定性	3
		緑化	定性	3
		見学者への配慮	定性	5
	環境負荷の低減及び地球温暖化防止対策に関する項目	排ガス量	定量	5
		建築物温暖化対策	定性	3
	プラント及び建築物の安全性・安定性に関する項目	安全かつ安定的に稼働させるためのプラント事故・故障対策	定性	8
		建築物及び煙突の安全・保全計画	定性	3
企業の技術力に関する項目	設計・施工に関する項目	工事施工計画	定性	8
		プラント設備更新計画	定性	7
	企業の建設・アフターサービス体制等に関する項目	建設・アフターサービス体制	定性	5
総合的なコスト削減に関する項目	用役収支	年間用役使用量	定量	6
		年間プラント電力量収支	定量	12
	主要設備補修項目（10年間）		定量	7

表－6 定性評価項目の得点化方法

評価	評価基準	得点化方法
A	提案について、工夫が特に優れている	(配点×1)
B	AとCの間	(配点×0.75)
C	提案について、工夫が優れている	(配点×0.5)
D	CとEの間	(配点×0.25)
E	提案について、適切に計画されているが、工夫が見られない	(配点×0)

5 総合評価の結果

総合評価の結果は、表－7に示すとおりとなりました。

この結果、日立造船・竹中特定建設工事共同企業体を落札者と決定しました。

表－7 評価結果

特定建設工事共同企業体名	技術評価点	価格評価点	評価値
日立造船・竹中特定建設工事共同企業体 (以下、A J V)	55.51	25.00	80.51
荏原・大成特定建設工事共同企業体 (以下、B J V)	55.16	無効*	無効
三菱・フジタ特定建設工事共同企業体 (以下、C J V)	40.05	24.95	65.00
配点	75.00	25.00	100.00

※入札説明書 10 入札手続き等に関する事項(2)に該当したため、無効としました。

【入札説明書 10 入札手続き等に関する事項(2)】

入札は1回とする。なお、技術提案審査結果通知書とともに予定価格の通知を行うため、入札金額が予定価格から取引に係る消費税及び地方消費税の額を除いた金額を超える金額であった場合は、当該入札者の入札を無効とする。

以下に評価の内容を示します。

(1) 技術評価

ア 「性能・機能に関する項目」【必須の要求項目】

本項目については、技術提案書を提出した全ての入札参加JVは、設計仕様書で要求する性能・機能及び工事条件を満足し、江戸川清掃工場建替工事を遂行する技術的能力を有し、競争入札に参加する者に必要な資格を有していることを確認しました。

イ 「社会的要請への対応に関する項目」、「企業の技術力に関する項目」、「総合的なコスト削減に関する項目」【技術評価項目】の評価方法

技術評価点は、表－7の技術評価点の欄に示すとおりとなりました。なお、項目ごとの評価の概要を表－9に示します。

(2) 価格評価

入札結果は、表－8に示すとおりとなりました。

表－8 入札結果

予定価格		48,453,030,000 円（税抜）
入札価格	A J V	48,300,000,000 円（税抜）
	B J V	無効
	C J V	48,400,000,000 円（税抜）

この結果から、価格評価点は表－7の価格評価点の欄に示すとおりとなりました。

表-9 技術評価の概要

大項目	中項目	評価
社会的要 請への対 応に関する項目	地域環境との調和項目	<p>「景観」については、曲面屋根を中心に全体をまとめており、各JVとも屋根、外壁について優れた工夫がなされている。また、AJV、CJVは壁面のセットバック、BJVは屋根の分割により圧迫感の軽減に努めた提案であった。</p> <p>「緑化」については、各JVとも周辺環境に配慮し、在来種を主体とした提案であった。また、BJVは季節感ある樹種選定、自然樹形のサクラ並木と連続する広がりのある緑地整備などが優れた提案であった。</p> <p>「見学者への配慮」については、各JVとも従来は見学できなかった箇所を見学者ルートに含める提案やリアル感・スケール感を体感できる見学者設備とするなど工夫がみられる提案であった。また、AJVの安全及び天候を考慮した見学者動線や実物大スケールの体感、BJVのシースルーエレベータによる炉内疑似体験や実物・模型・映像3点を混合した体感設備は、それぞれ高い評価となった。</p>
	環境負荷の低減及び地球温暖化防止対策に関する項目	<p>「排ガス量」については、各JVとも空気比を抑え、排ガス量を低減した提案であった。</p> <p>「建築物温暖化対策」については、各JVとも屋根面において外断熱・遮熱対策を行ったうえ断熱欠損部についても対策を行い、外壁内側に吹付けウレタンによる断熱対策を行う提案であった。また、AJVは工場の内壁にも断熱を行う居室の熱負荷低減の提案が、BJVは、最上階居室における二重断熱が優れた提案であった。</p>
	プラント及び建築物の安全性・安定性に関する項目	<p>「プラント事故・故障対策」については、各JVとも事故・故障発生の原因、要因を考察した上で実現性のある提案が多くみられた。AJVは、当組合での実績を踏まえ、具体的で実現性の高い提案が多くみられた。BJVは、ストーカ炉の改良による燃焼管理対策、ボイラ水管の減肉対策は効果が期待できる提案であった。CJVは、ストーカ磨耗、水銀濃度上昇、ボイラ腐食対策は積極的で実現性のある提案であった。</p>

大項目	中項目	評価
社会的要 請への対 応に関する 項目	プラント及び建 築物の安全性・ 安定性に関する 項目	<p>「建築物及び煙突の安全・保全計画」については、各JVともコンクリート打継部の一体性向上策、コンクリート打設時の止水対策など品質管理についての提案があった。AJVの煙突コンクリート中性化対策、BJVのごみバンカ天井照明とキャットウォークの一体化、CJVのコンクリートのひび割れ対策として吸水性の少ない材料を採用する提案は、それぞれ高い評価となった。</p>
企業の技 術力に関 する項目	設計・施工に関 する項目	<p>「工事施工計画」については、各JVとも適切に計画された提案であった。AJVは、独自の先進技術ハットダウン工法を用いた煙突解体計画を提案しており、環境対策において優れた提案であった。BJVは、先行解体において円滑な工事と工期短縮を図る優れた提案であった。CJVは、ANC（アクティブノイズキャンセリング）による重機等の騒音低減策が優れた提案であった。</p> <p>「プラント設備更新計画」については、各JVとも更新時のルート確保や揚重設備が適切に計画された提案であった。AJVの蒸気タービン更新時の工夫やタービン排気復水器の熱効率を経年的に確認し、容易にチューブバンドルを清掃することが可能なシステムを設置する提案、BJVの排ガス処理設備機器更新時に備え1、2号炉間に大規模なスペースを確保し、直接搬入車両を乗り入れ可能とすることやあらかじめ特高受電盤等の更新スペースを確保しておく提案が高い評価となった。</p>
	企業の建設・ア フターサービ ス体制等に関する 項目	<p>「建設・アフターサービス体制」については、各JVとも設計・施工・試運転に係る管理体制が充実しており、安全・品質管理専任者の配置、近年積極的に取組を進めているIoT技術等の活用など優れた提案であった。AJV、BJVは、かし担保窓口担当者に建設工事の営業等を配置する一貫した支援体制、災害時の支援や自動燃焼制御システムの設定調整などの自主的な対応を提案し、高い評価となった。</p>

大項目	中項目	評価
総合的な コスト削減に関する項目	用役収支	<p>「年間用役使用量」については、用役費が少ないB J Vが高い評価となった。</p> <p>「年間プラント電力量収支」については、プラント使用電力量はC J Vが少なかったが、蒸気タービン発電電力量が多かったB J Vが高い評価となった。</p>
	主要設備補修項目（10年間）	<p>「主要設備補修項目（10年間）」については、各J Vとも、長寿命化のための工夫及び補修費用を減らす方を講じているが、補修費が少ないA J Vが高い評価となった。</p>

江戸川清掃工場建替工事
総合評価実施基準

令和元年7月

東京二十三区清掃一部事務組合

1 総則

本江戸川清掃工場建替工事総合評価実施基準（以下「実施基準」という。）は、東京二十三区清掃一部事務組合（以下「組合」という。）が、江戸川清掃工場建替工事の請負者選定に際し、総合評価落札方式により落札者を決定するための方法及び手順を示すものである。

なお、本実施基準は、学識経験者から意見を聴取したうえで組合のごみ処理施設選定委員会において決定したものである。

2 評価方法

別途定める入札参加資格要件を満足する特定建設工事共同企業体等から、設計仕様書に基づく技術提案の提出を求め、技術評価方法に従って技術評価を行い、技術評価点を付与する。技術評価後、入札を行い、価格評価方法に従って入札価格に応じて価格評価点を付与する。

なお、技術評価点の付与に際しては、学識経験者から意見を聴取する。

(1) 技術評価方法

技術評価点は、配点 75 点とする。技術評価の項目、評価方法、各項目の配点は、「表－1 技術評価項目及び評価方法」に示すとおりである。また、技術評価項目のうち、定性評価を行う項目の採点は、以下の得点化方法による。

定性評価項目の得点化方法

評価	評価基準	得点化方法
A	提案について、工夫が特に優れている	(配点×1)
B	AとCの間	(配点×0.75)
C	提案について、工夫が優れている	(配点×0.5)
D	CとEの間	(配点×0.25)
E	提案について、適切に計画されているが、工夫が見られない	(配点×0)

各小項目における配点の有効桁数は、小数第 2 位（小数第 3 位を四捨五入）とする。

なお、同表中「性能・機能に関する項目」は、設計仕様書において定める必須の要求項目であり、この要求項目を 1 つでも満たしていない場合は入札参加資格を失う。

(2) 価格評価方法

価格評価点は、配点 25 点とし、予定価格の範囲内の入札価格に応じて下記の算出式から付与する。価格評価点の有効桁数は、小数第 2 位（小数第 3 位を四捨五入）とする。入札価格が東京二十三区清掃一部事務組合低入札価格調査制度実施要綱に基づく調査基準価格を下回る場合は満点とする。

$$\text{価格評価点} = \text{配点} \times \frac{\text{最低入札価格}^*}{\text{入札価格}}$$

※最低入札価格：最低入札価格又は、調査基準価格のどちらか高い方とする。

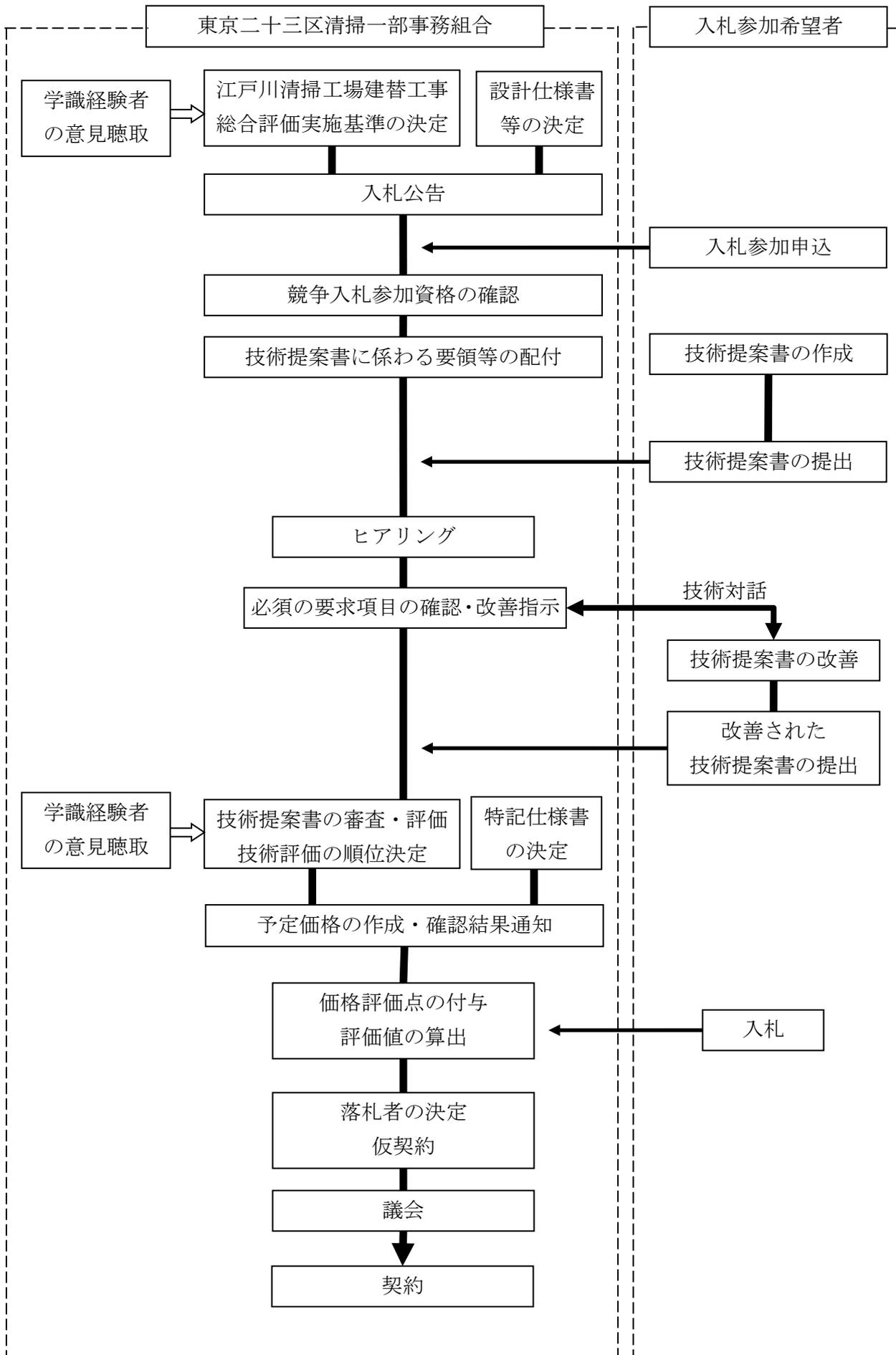
3 落札者の決定

技術評価点と価格評価点の合計点を評価値とし、評価値の最も高い者を落札者とする。

技術評価点(満点 75 点) + 価格評価点(満点 25 点) = 評価値(満点 100 点)

評価値の最も高い者が2者以上あるときは、入札価格の最も低い者を落札者とする。この場合において、入札価格の最も低い者が2者以上あるときは、くじ引きにより落札者を決定する。ただし、その価格が調査基準価格を下回るときは、落札の決定を保留し、東京二十三区清掃一部事務組合低入札価格調査制度実施要綱に基づき調査のうえ落札者を決定する。この場合において、適正な履行を確保するために、評価値が最も高い者以外の者を落札者とすることがある。

4 総合評価手順



表－1 技術評価項目及び評価方法

1 性能・機能に関する項目 【必須の要求項目】					
中項目	小項目	配点	確認方法	留意事項	
1	全体計画に係る性能・機能に関する項目	1	工事施工計画	解体、建設工事施工における発生材、建設廃棄物の処分、山留・掘削工法、騒音・振動・粉じん防止対策、地盤沈下対策、雨水及び汚水対策、安全衛生管理体制、工事現場の管理等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
		2	省資源・省エネルギー対策	プラント機器、建築設備機器の省エネルギー対策、雨水利用、太陽光発電設備等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
		3	施設の環境保全対策	大気汚染防止対策、水質汚濁防止対策、騒音・振動防止対策、悪臭防止対策等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
		4	施設の安全対策、作業環境対策	安全・防災対策、作業環境対策等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
		5	施設の信頼性向上対策	信頼性向上対策等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
2	建築に係る性能・機能に関する項目	1	建築本体	工場棟、煙突外筒、付属施設の構造計画や仕上計画並びに諸室の平面・断面計画や一般構成材について、設計仕様書に基づいて確認する。	本項目は、設計仕様書に定める施設の性能・機能、公害防止条件(自己規制値等)、工事規制条件等の必須の要求項目であり、1つでも満足しない場合は入札参加資格を失う。
		2	建築設備	建築機械・電気設備について、設計仕様書に基づいて確認する。	
		3	土木外構	構内道路、歩道、駐車場、困障、緑化等について、設計仕様書に基づいて確認する。	
3	プラント設備に係る性能・機能に関する項目	1	プラント設備(給じん、焼却炉本体、灰処理、汚水処理、通風、煙道、集じん、洗煙、触媒反応、煙突、ボイラ、発電、余熱利用、蒸気復水、純水、電気、計装自動制御、給水、その他設備)	各設備機器の仕様について、設計仕様書に基づいて確認する。	

2 社会的要請への対応に関する項目		【技術評価項目】		
中項目	小項目	配点	評価方法	点数の付与方法
1 地域環境との調和項目	1 景観	3	<p>環境影響評価書の施設計画方針等を踏まえた工場棟、付属棟、煙突、外構等全体を含めた景観について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>① 周辺との調和 ② 圧迫感の軽減</p>	①及び②は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。
	2 緑化	3	<p>緩衝緑地を含めた地上部緑化計画等について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>ア 緑化計画 イ 伐採樹木の活用方法</p>	ア及びイを総合的に判断し、5段階評価による得点化法により点数を付与する。
	3 見学者への配慮	5	<p>見学者の動線、視点の工夫等について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>① 工場内の見学者ルートに加え、見学者説明室までの動線（徒歩、自転車、バス）の工夫 ② 各見学ポイントの説明及び通路等における視点の工夫 ③ 環境意識啓発の工夫</p>	①～③は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。

2 社会的要請への対応に関する項目 【技術評価項目】						
中項目	小項目	配点	評価方法	点数の付与方法		
2	環境負荷の低減及び地球温暖化防止対策に関する項目	1	排ガス量	5	基準ごみ質における排ガス量を定量的に評価する。	排ガス量の最小に満点、他の提案値には満点の提案値に対する割合に応じて付与する。
		2	建築物温暖化対策	3	居室エリアの熱負荷低減対策について、定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。 ① 外壁面及び屋根の日射遮へい、断熱等における熱負荷低減の工夫	①は5段階評価による得点化法により点数を付与する。
3	プラント及び建築物の安全性・安定性に関する項目	1	安全かつ安定的に稼働させるためのプラント事故・故障対策	8	具体的な事故・故障対策について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。 ① プラント機器の地震に対する耐震・安全対策 ② 主灰シュート閉塞対策 ③ ストーカー磨耗・異物噛込対策 ④ 排ガス中の水銀濃度上昇時対策 ⑤ ボイラ腐食対策（過熱器、エコノマイザを含む全て） ⑥ コンピュータ・PLC信頼性向上対策 ⑦ 各種センサ信頼性向上対策	①～⑦は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。
		2	建築物及び煙突の安全・保全計画	3	清掃工場を長期にわたり安全に利用するための施工及び維持管理における工夫について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。 ① 地震及び強風に対する安全対策 ② 補修頻度の低減策 ③ 高所での点検・清掃を容易にするための工夫と安全対策 ④ 地下部における止水性向上策	①～④は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。
2		配点合計	30			

3 企業の技術力に関する項目		【技術評価項目】		
中項目	小項目	配点	評価方法	点数の付与方法
1 設計・施工に関する項目	1 工事施工計画	8	<p>工事を円滑に進めるための工夫等について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>① 工事施工計画 ② 安全管理計画 ③ 品質管理計画 ④ 環境対策</p>	①～④は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。
	2 プラント設備更新計画	7	<p>プラント設備更新時の機器搬入出計画等について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>① ごみ、灰及び固化物クレーン（サドル、ガーダ、トロリ及び走行レール） ② ボイラ（過熱器及びエコノマイザ） ③ 排ガス処理設備 ④ 蒸気タービン（タービン発電機含む） ⑤ 特高受変電設備 ⑥ タービン排気復水器</p>	①～⑥は提案毎に、5段階評価による得点化法により点数を付与し、評価点は合計点の割合に応じて付与する。
2 企業の建設・アフターサービス体制等に関する項目	1 建設・アフターサービス体制	5	<p>建設体制とアフターサービス体制について定性的に評価する。定性評価は5段階評価とする。</p> <p>ア 建設体制 イ アフターサービス体制</p>	ア及びイを総合的に判断し、5段階評価による得点化法により点数を付与する。
3 配点合計		20		

4 総合的なコスト削減に関する項目 【技術評価項目】				
中項目	小項目	配点	評価方法	点数の付与方法
1 用役収支	1 年間用役使用量	6	基準ごみ質における電力、ガス、用水、薬品の使用量を定量的に評価する。	使用量の最小に満点、他の提案値には満点の提案値に対する割合に応じて付与する。
	2 年間プラント電力量収支	12	基準ごみ質等におけるプラント電力量収支を定量的に評価する。	プラント電力量収支の最大に満点、他の提案値には満点の提案値に対する割合に応じて付与する。
2 主要設備補修項目（10年間）		7	定期補修工事における点検整備を含む主要な設備の補修について定量的に評価する。	一組の実績値と比較し、割合に応じて点数を付与する。
4 配点合計		25		
技術評価項目配点合計		75		